
真っ赤な茶番劇

にいに

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真つ赤な茶番劇

【コード】

N2183B

【作者名】

こいに

【あらすじ】

愛しているから素直になれない。そんな女の茶番劇。

(前書き)

駄文でございます。ご注意ください。これから成長していきたいと思っ
ているので、ご感想、アドバイス、いただけたら嬉しいです。

11月の夜、少し気が早い街はイルミネーションで輝いている。月の光が色褪せて見えるくらい。それはそれは明るい。

「不景気な癖に。」

なんて心の中で呟いたりしながらその中をゆっくりゆっくり歩いていく。

「少し早く出ちゃったか。」

と苦笑い。

華奢でいかにも可愛らしい真つ赤な真つ赤なミュールを履いたあたしの足は、早く早くあなたとの待ち合わせ場所に向かおうとするでも、それを抑え、ゆっくり歩く。

この間は10分前に、その前は10分遅くに到着したから、今日は20分ほど遅れて行く。

携帯電話を取り出し時間を確認するついでにマナーモードを解除する。さらに着信音量を1から3へ。

自分の行動に、あたしはにやりと口の端をあげる。

その口に引かれたルージユもこの前の可愛らしいピンクとは違い、いやらしい赤。

自分自身の行動に呆れてしまう。

自嘲的な笑みが溢れる。

あたしったら、一人で笑いすぎね。

あなたに出会ってからのあたしはおかしい。

無理に背伸びして、大人の女を演じようとして。

なぜこんなに素直になれないのか。

いや、理由は分かっている。

怖いのだ。

けれどこれが自分の首を絞めている気もする。

ああどうしたものか。

あたしは弱い女。

ねえ、どうかあたしを見捨てないで。

このくだらない茶番にもう少しだけ付き合っ

こんなことをしなくていいように安心させて。

またケータイを取り出し時間を見ると30分の遅刻。あら、予定外。

「おい。」

気が付くと数メートル先には大きく手を振るあなたが。

きつと今日のこの自分自身予定外な遅刻にも、あなたは怒らないんだろうな、なんて考えて、またにやりと笑った。

(後書き)

こんな駄文に目を通していただき、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2183b/>

真っ赤な茶番劇

2010年10月28日04時25分発行